

## 令和 6 年度 横浜氷取沢高等学校姉妹校交流（オーストラリア）の取組み

### 1 例年の取組み

本校は平成 27 年度より南オーストラリア州のアデレードにあるパラフィールドガーデンズハイスクール（以下 PGHS）と交流を行っている。例年は 9 月に PGHS 生が来校し、希望生徒宅へのホームステイ、鎌倉での校外学習活動、本校の授業体験（英語授業への参加、HR 活動への参加、書道体験、部活動体験）をしており、3 月に本校生徒（15 名程度）が PGHS へ訪問し、同様にホームステイ、学校での授業体験を行っている。令和 2 年度より、オンラインでの交流を定期的に行っている。

### 2 今年度の取組み

令和 6 年度はコロナ禍後初となる、PGHS への訪問が行われた。4 月から生徒には実施計画を提示し、7 月に参加希望者向け説明会、9 月に面接及び書類選考、10 月に保護者説明会を実施し、以降 3 月に実際にオーストラリアへ渡航するまで 15 回以上の事前学習会を実施した。3 月には 15 名の生徒が 9 泊 10 日のホームステイを中心とした姉妹校訪問を実施した。

令和 6 年度のオンライン交流についても昨年度同様、毎月 1 回程度行った。今年で 5 年目のオンライン交流となる。今年度は 17 名の 1・2 学年の生徒が参加している。

やり方は、ZOOM のブレイクアウトルームを活用し、本校生徒と、PGHS の生徒が 2 名ずつ程度の班を作り、一定時間の中で、グーグルスライドを活用しながら発表と Q & A を行う。一定時間経過後は時間の許す限り、また別のグループを作成して、同様の活動を繰り返す。英語の発話量、リスニング量は相当なものとなり、また同世代の姉妹校生徒ということで、本校生徒もモチベーション高く臨んでいた。

### 3 オンライン交流の具体的な内容

#### ・日程

- 第 1 回 5 月 30 日 自己紹介
- 第 2 回 7 月 25 日 体育祭の紹介
- 第 3 回 9 月 9 日 夏休みの思い出について
- 第 4 回 10 月 30 日 文化祭について
- 第 5 回 12 月 5 日 年末年始の過ごし方について
- 第 6 回 2 月 5 日 修学旅行とキャンパスツアーについて

交流校の生徒は日本語を学習している生徒のため、相手校の生徒は日本語でプレゼンテーションを行うこともあった。

#### 4 PGHS訪問の事前学習について

①	任命状授与式&ランチミーティング
②	保護者&生徒向け説明会
③	健康調査&ホームステイ申込書
④	神大留学生との交流準備①
⑤	神大留学生との交流準備②
⑥	神大留学生との交流準備③
⑦	神大留学生との交流
⑧	お土産、部屋割り、入国審査用紙等
⑨	お土産、学年代表決め、茶道紹介係分担
⑩	ETASについて
⑪	緊急時クラスルーム利用練習
⑫	空港での手続き（スマートゲート、入国審査等）
⑬	オーストラリアの歴史
⑭	英語学習
⑮	英語学習
⑯	直前説明会

※別に茶道部の協力を得て茶道練習会を放課後に2回開催

#### 5 PGHS 3月の訪問日程について

3月7日（金）成田発

3月8日（土）メルボルン着発 アデレード着 ホームステイ先へ  
以降、14日までホームステイと現地校訪問

3月14日（金）アデレード発 シドニー着

3月15日（土）シドニーにて歴史・文化学習

3月16日（日）シドニー発 羽田着

#### 6 オーストラリア交流委員（オンライン）の日々の交流の中での感想（抜粋）

生徒A：オーストラリアの文化であるプロムやイースターを教えてもらった。特にイースターは、名前は知っているが実際はどういった文化なのか全然知らなかつたので、とても参

考になった。プロムも日本ではあまりない催しなので、異文化のことを理解するいい体験ができたと思う。ドレスで着飾るのはとても憧れるな、と思った。

生徒B：前回よりも多くのPGHSの生徒と接することができて楽しかった。また、彼らはプレゼンを日本語でしていて、スライドも上手ですごいと感じた。だけど、プレゼンが終わった後のフリートークに繋がるまでの空白の時間が生まれてしまいがちだから、できるだけフリートークにうまく繋げられるようにしようと考えた。

生徒C：オーストラリアでは、日本語を勉強する生徒が多いというのを中学校の地理で知つて、自己紹介で日本語を使ってくれたり、親近感が湧きました。これからの交流を通してもっと英語を積極的に話したいし、単語量も増やしていきたいなと思いました。

## 7 今後の展望

令和6年度はコロナ禍後初の訪問を実現することができた。前回との間にかなり時間が空いたため、相手校と本校に実際の交流を経験した教員は本校に1名、相手校には0名しかいない中での、訪問事業の再構築となった。生徒、保護者、本校の教員、相手校の教員、そして旅行会社と様々な立場で、懸命に訪問実現に努力した結果であると考えている。今後はこの努力を更なる両校の発展につなげていくことが大切である。本校はグローバル教育に特に力を入れている学校であるが、その学習意欲の糧となるのが、「実際につながっている」ということであると考える。毎日でなくても、オンライン交流や、姉妹校訪問、姉妹校受入れと、日々の中に少しずつこうしたイベントがあるということが、毎日の英語をはじめとする様々な学習へのモチベーションの土台になっている。今後もこの貴重なパラフィールドガーデンズハイスクールとの交流をより一層発展させていきたい。